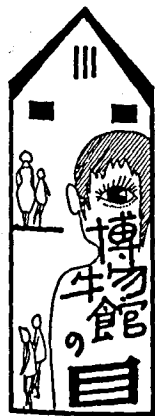


博物館実習と学芸員



博物館の専門職員である学芸員を養成するための博物館学講座を開設している大学は、1985年の時点で106校を数えます。現在は更に増えていると考えて良いでしょう。そこで養成される学芸員有資格者の数は

年間3000名を越えるとのことです。

一方、日本の博物館は類似施設を含め、約4000館といわれ、毎年100館余が新たに開館しているようです。数字の上からは、博物館がどんどん出来、学芸員有資格者もワンサと養成され、日本の博物館界は、博物館法の定めた人員配置が可能となるような、バラ色の世界を迎えられる気がしてきますが、現実はどうでしょうか。

博物館学講座のあり方、実習生と学芸員の問題についてちょっとふれてみたいと思います。

講座を開設している大学で、相当・類似施設をもつ所は限られており、博物館実習生の大半が現場の博物館で、1週間前後の実習でお茶を濁しているのが実情です。学芸員の「学は学問、芸は芸である」との説からすれば、実習とは博物館の実態を知ると同時に、その芸芸について、技を磨くべきものではないでしょうか。そうした意味で、大学の講座の開講と施設・体制面に問題があるように思います。ちなみに、韓

国の大学はすべて、博物館を併設しているとの話を聞いたことがあります。

「博物館がこんなに忙しい所で、学芸員じゃなく雑芸員として、こんな仕事までするなんて」というのが実習生の感想にあります。受入れ、指導する側の学芸員にも多くの問題があります。仕事に追われ、雑役の手伝いや、資料整理の人手として実習生を利用したり、時には館職員の一方的な話や、掃除のような仕事で実習を終らせてしまったりとか。

大学と博物館、相互にもっと実態を伝え合い、より良い実習をめざすべきではないでしょうか。『たかが学芸員、されど学芸員』とさえ言われる日本の学芸員ですが、それでもその資格を得るためには、博物館概論・博物館法・資料収集・整理保存・調査研究・展示・教育普及等々、一通りの『博物館の理念』を学んだ実習生が、学芸員有資格者として、巣立っていくわけです。そう考えるなら、一人でも多くの実習生に、実のある実習を体験してもらい、少なくとも博物館の良き理解者、協力者になってもらう努力を先輩学芸員としては、惜しんではならないように思うのです。

博物館は未来への夢の玉手箱であると同時に矛盾のBlack-Box という現実、博物館実習と学芸員の問題にも、ちゃんと存在しているようです。

(M. I)

実習生から見た博物館

愛知学院大学 佐藤 敦子
(実習館・岐阜市歴史博物館)



過日(昭和61年7月22日～28日)、私達は学芸員の実習生として岐阜市歴史博物館のお世話になりました。実習生は3校から6人が集まったのですが、歴史を専門に学んでいるのは私一人でした。聞けば、国文・英文学科の方と社会心理学科の方で、そういった学科でも学芸員の講座が開かれているとは私自身、知らないことでした。

ところで特別展などでよく見かけるポスターや図録等は、どのようにして作られていくか御存知でしょうか？ 私はただ漠然と、ああいったものはそれぞれの専門家に依頼するものだと思いついていました。が、いざ実習で現場を見せていただくと、全ての学芸員の方の仕事という事で、とても驚きました。撮影現場を見せていただいた時も学芸員の方が「照明の光の当たり方が悪くて被写体が光る」と悩んでおられました。又、そのフィルムも大体のものは館内で現像してしまうようで、その玄人裸足ぶりには目を見張るばかりでした。それで広報をされている方に専攻をお尋ねしたら、江戸時代だということでした。歴史や考古学・人類学を納めただけでは今の博物館のニーズには応えられない事、だからこそ色々な学科で学芸員の講座が開かれて、あらゆる方面から人材を集める必要があるのだという事を目で見ていただきました。

見せていただいた事、させていただいた事は多いのですが、印象に残ったのは何と言っても収蔵室の広さです。

博物館には展示してある資料の他に未調査・未整理のもの、調査中・整理中のもの、更に収蔵し保管されているもの等、普通人目に触れない資料も多くあります。ですが、それが一体ど

のくらいの量なのか、十分に把握していませんでした。そして実際に見せていただくと、3階の半分近くが第1～第5収蔵庫としてスペースを占め、一定温湿度を保っています。3階の面積は2階(主に常設展示と学習室)よりほんの少し広い程度です。それに加えて館外にも独立して収蔵庫があります。こちらでは主として民俗資料を保管していますが、どちらかと言えば大型のもので、館内の3階には運びにくそうなもの、例えば鶉飼用と思うのですが舟ですとか、階段(本当に階段だけという点がすごいと思うのですが)などです。

大きな部屋に様々なものがたくさん置いてあるので、収蔵庫を1つ眺めているだけで相当時間がかかりそうです。又、少し見ているだけでとても面白く、話には聴いていても初めて見たものや、何に使ったのか私には見当もつかないもの、年代ものの貴重品など、すまじ込んでいる常設展示よりもむしろ魅力的でした。こういった資料は特別展などで公開されると思いますので、機会があれば御見学をお勧めします。

ただ実習期間中気になったのは、よく見学の方が来られているのですが、大体の方がバスで来られた県外の団体の方でした。せっかくきちんとした博物館があるのに、もったいないと思います。図書館もそうですが、博物館は国や県・市のためにあるのではなく、国民や県民・市民のためにあるという事を思い出して下さい。

岐阜女子大学 林 伸江
(実習館・岐阜県博物館)

今まで博物館へ何度も足をはこぶ機会があったが、実習生としてこちらへ入り一般入館者と最も違う体験といえば、やはり博物館の内の仕事を知ることができたということであろう。

博物館職員である学芸員になるために実習にきているのであるから当然ではあるが、展示を見学しても企画者の苦労をおもんばかることなく、博物館の外の姿しか見ることのなかった自分にとって、モノが展示資料としての価値をもつようになるまでにいかに多くの労力が費されているかを学習できたことは博物館を理解する上で大きな収穫であった。

特に、岐阜県博物館は人文科学系と自然科学系の両分野を兼ね備えた総合博物館であるため取り扱う資料も種類や数が豊富である。豊富であれば、管理運営の方法にも違いが見られるわけで、それだけ専門的職員、つまり、学芸員の活動が重要な役割を果しているといえる。

実習期間中、学芸員という職業に関して認識をあらたにしたことは、自分の専門的資料の調査研究が大半を占める仕事であると考えていたが決してそれだけではなく、展示の構想、製作、紹介、宣伝に至るまで手がけ、むしろ、教育普及活動に関する仕事の方に重きをおかれ、そのため、多様性に富む能力を要求されるということである。

考え直してみれば、博物館の本来の目的は、地域社会における生涯教育の場として役立つことである。そのため、教育普及活動に力が注がれるのは当然のことといえる。

一般市民が有意義に学べるような博物館にするために学芸員が果たす役割の広さを実習にきて深く感じた。

静岡大学 北川 晶子
(実習館・岐阜県博物館)

実習生とはいえ、胸にバッヂをつけ学芸員の先生方しか入れない収蔵庫にも入れていただき、非常にいい体験をしました。実習以前についていえば、博物館とは“もの”を見せるところであり、その舞台裏がどのようになっているかなどは全く考えなかった。見る側にしてみれば、展示により実際に目で見るものが博物館の全てである。実は、展示してあるものの何倍もの資料が収蔵庫で眠っているのである。その中から適切であると思われる資料を学芸員が選び出し、見る人が見やすいように整理をしたり、調査したりする。また、岐阜県博物館では、説明などのパネルは自作である。実習ではこのパネル作りもやらせていただき、どうしたら見てもらえるかという見る側の立場にたつことの必要性を感じた。ちょっとした工夫次第でかなりの変化が表れることがよくわかった。

以上のように、常に見られることを意識し、博物館としての価値を高めることも、学芸員の重要な仕事のひとつだと思った。

さてもう一つ重要な仕事に挙げておきたいことは、博物館の教育普及的分野での仕事である。展示したものを知ってもらうこと自体、教育普及であるが、それだけにとどまらず、興味を持って、さらにできれば奥深い研究へと進んでもらいたい。もちろん一般の方にそこまで要求するのは無理があるが、いくつになっても向上しようという気持ちを持ちつづけてもらいたいという生涯教育の一環なのである。そのために県博物館では、図書室や勉強室を置き、いろいろな教室を開いている。

実習を通して学芸員という立場に立ってみて初めて学芸員の仕事の大変さを知ることができたと思う。それは本当にきりがなが、全ては県に密着した、県民のための仕事である。これから博物館に入るときは、今までとは違った視点で見学ができることだろう。

第31回 岐博協セミナー開催

「宝暦治水と薩摩義士」

講師 海津町長 伊藤光好氏
2月25日(木) 13:00～15:00
会場 海津町文化センター



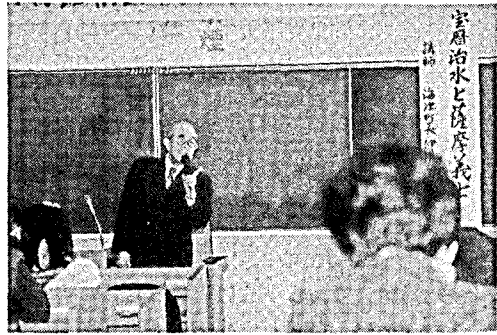
本年度最後の岐博協セミナーが、南濃海津町文化センターで開催されました。県下各地を回ってのセミナーですが、今まで南濃地方では開催されたことがなく、会員多数の希望により、海津町の全面的な協力のもと、実現したものです。

この地は、岐阜の治水の歴史においては忘れることのできない木曾三川の合流地で、今回のテーマも「宝暦治水と薩摩義士」として講師には、伊藤光好海津町長をお願いしました。

当日は、2.26事件を思い出させるような春の大雪にもかかわらず30名余の参加者をむかえ『伊藤節』と呼ばれる伊藤町長の名調子の講演を伺うことができました。

伊藤町長は宝暦治水史蹟保存会会長として長く活躍され、その講演会も200回を越える薩摩義士を語る第一人者です。

「木曾三川は木曾川と長良川で1.3m、長良川と揖斐川でまた1.3m、高低差があるのです。この低い流れの揖斐川の堤防は、尾張藩の堤防より3尺低く作ることが決められておりました。私どもの祖先が、大水のたびにどのような苦しみを味わってきたか、ここからおわかりいただけると思います。こうした状況で行われた宝暦治水とは、薩摩のお手伝普請の悲劇だったのです。」自然環境から説きおこされた話は、幕府



(義士の生きざまを語られる伊藤町長)

の政策、薩摩藩の藩政へと進み、総奉行平田靱負の登場となります。

「仁義の精神は守らねばならない。年々歳々水に苦しむ美濃の人は、四海同胞。我が身を殺してもおぼれ死ぬ兄弟を助けることが仁義の道。千歳の後までも、仁義の精神を守るべし。」

平田靱負の並々ならぬ決意と指導のもと、宝暦治水工事は1年4ヶ月の歳月と40万両の巨費、そして89名の尊い犠牲のうえ完成したのです。

「平田靱負はすべての任を果した後、宝暦5年5月24日、辞世の歌を残して、割腹しました。住みなれし 里も今さら 名残りにて

立ちぞわずらふ 美濃の大牧

赤穂義士という私怨・私憤の義士でなく、薩摩義士こそ、本当の義士ではないでしょうか。」

昭和62年度、岐博協セミナーは下記のような計画で準備を進めております。

- 第32回 5月 内藤記念くすり博物館
- 〃 33 〃 7月 青邨記念館と苗木城址
- 〃 34 〃 10月 大垣城郷土博物館
- 〃 35 〃 1月 岐阜県美術館

岐阜県博物館協会の主要な事業であり、会員館園のみならず、一般の方々にも広く開かれたセミナーです。今後さらに具体的に、日程・内容等を煮詰め、一人でも多くの方に参加していただけるよう、企画してゆくつもりです。

詳しいことは、順次この機関紙やそのつのご案内によりお知らせ致します。まわりの人にも広く声をかけていただき、多数ご参加いただきますようお願い申し上げます。

岐博協会員研修報告

第5回「博物館における コンピューターの使用」

1月20日(火) 13:00~15:00

会場 少年科学センター

第1回の研修テーマにつづき、情報社会に対応できる博物館をめざしコンピューター研修を行いました。

東京から講師としてMTI社長関芳行氏を招き、博物館にハード・ソフトの情報機器を納入する業者の立場から最新の知識・知恵を披露してもらいました。

ハードを入れる前に、どんな目的で使用するのか、どのように利用したいのかを明確にすること、内容によってはコンピュータ化することが良いとは限らない。そして、ハード以上にソフトの良し悪しによって能力が決定されること、安易なコンピューターの使用は、絶対にさけるべきであるとお話を伺うことができました。

ただ、講義のあとの実演で、機械が作動せずコンピューターの持つマイナス面を見せられる結果となってしまったことは極めて残念でした。

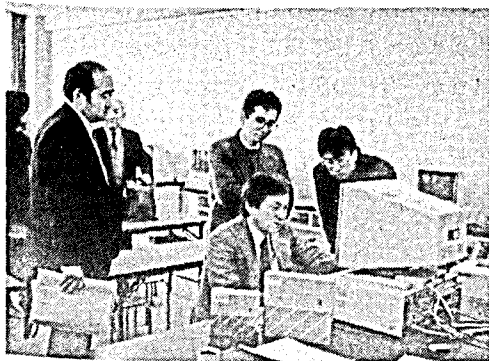
参加された方々に対し、係として深くお詫びします。

しかしながら、今後コンピューターについては、MTIにいろいろご相談になられるとよいのではと思います。

株式会社 MTI

東京都千代田区三番町7-2

TEL 03-261-0320



第6回「博物館における 写真技術」

3月5日(火) 13:00~15:00

会場 岐阜県美術館

博物館では、図録、リーフレット、新聞社向け資料、登録など、写真撮影の機会が多くあります。写す対象物も多様で、絵、仏像、植物、土器などそれぞれ撮影条件も異なってきます。今回は、室内での撮影に焦点をあてました。

十六銀行PR誌「ひろば」で博物館の収蔵品を撮影されておられる名古屋市フォト・スズキ佐藤三千男氏に講師をお願いし、県美術館の写真室をお借りして研修会を実施しました。

本年度の研修会の中でも最も多く参加者を得ることができましたが、主催者側も、具体的な内容を明示しなかったため、受講者にとって中途半端な結果となってしまいました。

1. 受講者からの質問

質問を受けて写真室で実技指導

2. 写真室での実技指導

- 光る対象物 - ガラス製品、鉱物
- 仏像 ◦ 花
- ガラスの額に入った絵

ライティング・反射版・バック等について説明を受けました。特に、反射版の使い方、ライティングの方向などについては、大変役に立つ内容でした。またカメラ前面に黒紙を被い、反射を防ぐ方法なども教えていただきました。



これからの会員研修を考える

編集部

会員研修会を開催しはじめて2年が過ぎた。研修内容も多岐にわたり、中途半端で、何を研修したのか、反省もないまま来年も開催されるとなると大いに問題が残る。博物館協会としても、セミナーと共に会員研修会は大きな柱となっている点を考えると、会員が本当に望んでいる内容で、実践的なものが望まれるのではないだろうか。

ある受講者からこんな手紙をいただいた。

「先日の研修会御苦勞様でした。少々反省点を述べさせていただきます。今回、一番目についたのは、受講者の写真に対する知識のレベルに差がありすぎた点です。そのため質問の内容があまりにも多岐にわたりすぎ、講師の方も困られたことと思います。こと写真に関しては、今回で終りにするのは残念です。改めて実践的な実技講習を行うべきでしょう。その際レベル差に応じて、初級・中級・上級のコース別にしてはいかがでしょうか。カメラを持ったことのない人、35mmカメラしか扱ったことのない人、現像・焼付けまでやる人など、それぞれ分かれた方がより効果的と考えます。岐博協のセミナーとは異なり、研修会ではより実技面に比重を置いた活動を目指しているのなら、もう少し、その点を徹底すべきです。年3回では物足りないし、一講2時間というのも淋しい気がします。

来年度の案として、全体がより多く集まれる会を従来どおり開催し、そのうち1回は初年度のように宿泊つきでお願いしたい。

また、短期集中型で、例えば、写真撮影・現像焼付けコース、表具コース、印刷の版下作成コース、資料実測・トレイスコースなど毎年定期的に行ってはどうか。奈良国立文化財研究所で行っている講習会と、大学の学芸員養成課程で行っている講義をあわせたような組織だった研修会ができればよりよいと考えてい

ます。」

手紙の内容は編集部の方で一部省略させていただきます。

現在、会員研修会の世話は、機関紙編集委員も委員となっている関係上、この紙面で、今後の方向について論じてみたい。

参加人員も回を重ねるにつれ多くなり飛騨・東濃・西濃と多方面にわたる。時間的な問題も考慮する必要があるが、10時頃～3時頃まで昼食をはさみながら研修会を持つのも一案である。

確かにコンピューターの場合も、写真技術の場合も、専門性が強く問題が多く残った。主催者としては、なるべく博物館を理解している専門家の方がと考え、各方面と接渉し、しかも安い費用でと考えていたつもりなのだが、受講者の要望にもっと合わせる必要がある。

今後長くこの研修会を継続させるために、

- ① 会員の中で、特にすぐれた技を持つ人に講師を依頼する。
 - ② 写真、パネル作りなどは、毎年コース別に実技教室を持つ。費用は実費受講者負担とする。
 - ③ 会場は岐阜市周辺に集中させず広く県内を持ちまわり、会場館園で世話をお願いする。
- 以上は、来年度への一案である。会員研修会が予定日より遅れるのは、会場の確保、案内、当日の準備、指導者との交渉など、現状では担当者まかせにしているからではないだろうか。今後の研修会のためにも、会員がもっと声を大にして要望し、主体的に参加し、会員が創りあげていく会でなければならないのではないだろうか。小さな館園とスタッフの多い大きな館園では、要求が異なるだろうが、岐阜県の現状からすると、小さな館園の小さな声を大切にしていっていかなくてはならない。

内藤記念くすり博物館

〒483 羽島郡川島町

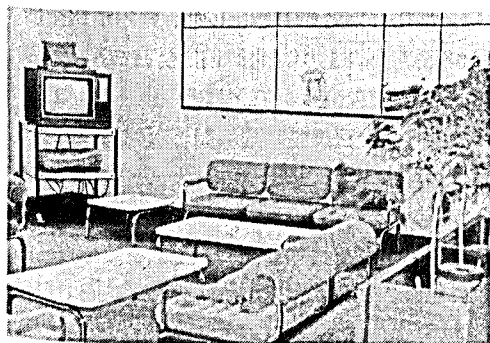
TEL 058689 - 2101

くすり博物館が新装開館しました。従来からある合掌造り風の本館の右横に、現代的建築の新館が調和を保って増築、内容を一新しました。展示場は新館に移り、本館は図書室、収蔵庫、エーザイコーナーから構成されています。展示場が6階建てから2階建て(展示面積は1.3倍)に変わり、また休憩コーナー、ライトコート等息抜きの空間も設置され、無理なくゆっくりと見学できるようになったと思います。エレベーターも本館、新館、共に設けられ、身障者への配慮もしてあります。

新館1階が薬の歴史の展示、2階が健康を考える展示と単発テーマのコーナーから成り、間仕切り可能な特別展示室が作られたことも、今後の活動を充実させる上で重要です。展示ケースは壁面いっぱいに連続して作られています。ケース内の柱を利用し、テーマごとに展開して自然な流れで見学できるよう配慮してあります。

今回、大きく変わった点は、遊びの要素がかなり増えたところです。カロリー計算の機械を導入し、一日で摂取した食事内容・身長・体重性別等のデータから肥満度や栄養のバランスが診断できます。また生薬コーナーの匂い当てクイズでは、植物の匂いをマイクロカプセル化し

(休憩コーナー)



たシートをこすると匂いがする仕組みとなっています。その他、オリジナルの紙風船(富山の薬売りのおみやげ)を製作、皆さんに作っていただいています。また、薬屋ジオラマの中で石臼や薬研を動かし薬草を粉にしてもらうなど、参加性のある展示が増えました。このほか、ロビーに復元した直径4.3cmの巨大な人車・製薬機を時折、館員が中に入って廻しますが、たいへんな迫力です。

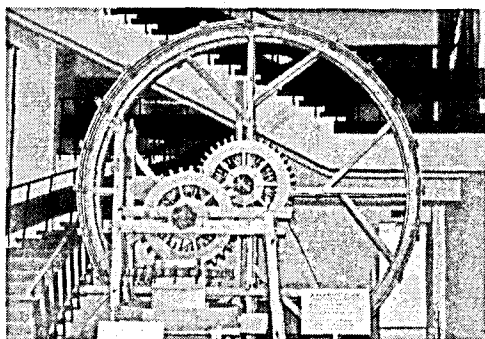
ビデオも2か所に設置し、丸薬の作り方などをわかりやすく伝えます。そのうちの 하나가、薬屋の店先に腰かけて見れるのも気が利いているのでは? また、ホールで上映する16ミリ映画も薬の歴史や薬の製造工程の映画に、小中学生向けのものなどが加えられ、視聴覚学習の面でも充実してきました。

また、特筆するのはキャプションで、見やすさ、価格、管理の3点を考えて、ワープロと特殊なシートとアクリルの板を使い、館員で制作しました。ワープロをうまく利用し成功した点で他館の参考になるのではないかと思います。

くすり博物館はエーザイの工場の一画に位置し、エーザイ川島工園の名が表わすように緑豊かな公園工場です。このたび、新しく建った製造工室の見学と日本庭園の見学ができるようになりました。図書室を含めたくすり博物館、附属薬用植物園、そして工場見学。川島工園という総合的な薬に関する文化ゾーンとして、大いに利用していただきたいと思います。

9時~16時開館、月曜日休館、無料。

(人車・製薬機)



新入会・館園紹介

○ 宮村民俗資料館（公立）

岐阜県大野郡宮村 3072 番地

TEL (057753) - 2111 (教育委員会)

明治13年建築の旧宮村立宮小学校（村指定有形文化財）の建物をそのまま生かし、民俗資料館としてあります。内部は、1階展示室1（古文書、教科書、土器、石器）展示室2（すまいの道具）展示室3（農耕の道具）2階展示室1（すまいの道具）展示室2（農耕の道具）展示室3（織機の道具、山林の道具、狩猟の道具）展示室4（衣類）の7室があります。

連絡により随時開館、教育委員会まで申し込むこと。入館料は無料です。

催し物案内

◎ 岐阜県博物館

特別展 「濃飛の弥生時代」

4月22日(木)▷6月7日(日)

◎ 岐阜県美術館

再興第71回 「院展」

3月26日(木)▷4月12日(日)

◎ 岐阜市歴史博物館

特別展 「五島美術館名品展」

4月24日(金)▷5月24日(日)

◎ 名和昆虫博物館

野外観察会 「深山の虫たち」

場所 谷汲岐礼谷

5月17日(日) 申し込みは電話で

◎ 瑞浪陶磁資料館

「うわ絵つけ盛り絵展」

4月1日(木)▷5月30日(土)

◎ 飛驒民俗村

車田の田植え……実演公開 5月31日(日)

◎ 羽島市歴史民俗資料館

「ふるさと魚」

3月21日(土)▷5月5日(火)

高山屋台会館より お知らせ

高山屋台会館では、新屋台会館の建築に着手します。5月着工、9月完成の予定です。工事に関係なく高山屋台会館は開館しています。

瑞浪化石博物館展示整備

瑞浪化石博物館では、展示を新たに増設しました。化石の生態・化石の分類のコーナーです。また、4～5月に特別展も予定しています。

編集後記

◎ あわただしく本年度最終号の編集にとりかかっています。毎号のことながら発刊期限過ぎてからの作業となってしまい、会員の皆様に申し訳なく思っています。(S.A)

◎ 最終号は、学芸員実習について特集しました。岐阜県内の大学でも学芸員養成過程を持つ大学がでてきました。博物館を理解する人が増えることは喜ばしいことですが、学芸員になれることとは別問題のような気がします。(S.A)

◎ 県内の博物館人が互いに悩みを語りあい、情報を交換するサロンのような会があったらと考えています。研修会がそんな会になったら、今以上に楽しくなると思いますが、いかがでしょうか。(M.O)

◎ 県内各館園は、この紙面で大いにPRをしてください。もちろんPR費は無料です。本音は、催し物案内などの情報が不足していることですが……。(S.A)

◎ 博物館協会を中心とした、県内情報交換システムをつくり、「ヒト」も「モノ」も、もっと親密な交流ができれば……。夢でしょうか。(M.I)

〈お願い〉

博物館や、それを支える人で、日頃から活躍されている人を紹介してください。紙面で登場していただきたいと考えています。